

『哲学の探求』第43号刊行にあたって

今年も皆様に『哲学の探求』をお届けすることが出来ました。本号は2015年7月11日及び12日に開催された「哲学若手研究者フォーラム（以下「若手フォーラム」）」でのテーマレクチャーと個人研究発表に基づいた論文集です。

若手フォーラム、そしてこの雑誌『哲学の探求』は現在、日本におけるアカデミックな哲学研究の領域のなかで独特の地位を築き上げつつある、といっても過言ではないでしょう。参考までに申し上げますと、2015年度の若手フォーラムでは二日間で40を越える個人研究発表、3つのワークショップ、1つのテーマレクチャーが行われ、参加者は100人を越えています。夏の暑い日に、哲学の研究を志すひとたちが一つの場集い、文字通り朝から晩まで、懇親会や果ては宿泊先の大浴場でも哲学の議論をしつづけているという光景は、若手フォーラムにおいてはそう見られるものではありません。また、『哲学の探求』についても、先の42号から完全に電子化されたことで、より多くの方の目に触れてもらえるような仕組みが整いつつあります。

哲学の研究は——他の多くの学問と同様に——独りで考え、書く部分だけでなく、他人と議論し、それに応えていくことによって進展する部分の二つがあります。そして、後者の部分については、敷居が低く、水準は高いものであること、そして何よりも議論に十分な時間が確保されていることが大事なはずで、この精神に基づき、若手フォーラムは、常に自由で、生産的で、進取の気風に満ちた研究集会であることを目標にしています。そして、この気風は参加者全員の尽きることの無い哲学への探究心によって維持されているものです。2016年度も多くの一ひとが若手フォーラムに集い、また質の高い、バラエティに富んだ論文が『哲学の探求』に投稿されることを、世話人一同、心より願っております。

2015年度世話人総務担当・長門裕介